

施策評価シート

令和 5 年度

総合 体系 計画	分野	5	第5章	ふるさとに愛着と誇りを持ち、魅力ある人と文化を育むまち	施策統括課	教育総務課
	施策No.	2	施策名	就学前からの教育の充実	課長名 (施策統括責任者)	横田 昌和
	関係課	保育幼稚園課 教育総務課 学校教育課 学事課				

1. 施策の目標

めざす姿 (成果目標)	子どもたちは、楽しく学校に通い、意欲的に学んでいる。
取組方針	次代を担う子どもたちに、生活習慣や社会のルールを身につけさせた上で、健やかに育ち、心豊かで確かな学力、たくましく生きる力を育成する取組を進めます。

2. 施策の意図と成果指標

対象（誰、何を対象としているのか）*人や自然資源等	保育園・幼稚園の園児・児童、小学校児童、中学生生徒						
意図（この施策によって対象をどう変えるのか）	楽しく学校に通い、意欲的に学んでいる。						
成果指標 A							単位
不登校児童・生徒の全体に占める割合							%
H30 基準	R1 計画 実績	R2 計画 実績	R3 計画 実績	R4 計画 実績	R5 計画 実績	R6 目標	
1.78	1.73 1.96	1.68 1.81	1.63 2.03	1.58 2.46	1.53 0.00	1.47	
成果指標 B							単位
園児が楽しく幼稚園・保育所（園）に通っていると感じている市民の割合							%
H30 基準	R1 計画 実績	R2 計画 実績	R3 計画 実績	R4 計画 実績	R5 計画 実績	R6 目標	
89.7	94.8 85.7	94.8 81.1	94.9 87.8	94.9 89.3	94.9 0.0	95.0	
成果指標 C							単位
幼稚園・保育所（園）から小学校へ円滑に接続できたと思う小学校1年生の学級の割合							%
H30 基準	R1 計画 実績	R2 計画 実績	R3 計画 実績	R4 計画 実績	R5 計画 実績	R6 目標	
100.0	100.0 100.0	100.0 93.8	100.0 96.2	100.0 100.0	100.0 0.0	100.0	
成果指標 D							単位
児童生徒が楽しく小中学校に通っていると感じている市民の割合							%
H30 基準	R1 計画 実績	R2 計画 実績	R3 計画 実績	R4 計画 実績	R5 計画 実績	R6 目標	
87.6	87.6 81.7	87.6 79.5	87.6 81.8	87.6 81.1	87.6 0.0	87.6	
成果指標 E							単位
生徒（中学2年）の基礎学力の水準							-
H30 基準	R1 計画 実績	R2 計画 実績	R3 計画 実績	R4 計画 実績	R5 計画 実績	R6 目標	
0.77	0.78 0.84	0.79 0.74	0.80 0.76	0.81 0.66	0.82 0.00	0.83	

施策評価シート

3. 市民意向調査結果

施策の重要度	前回	今回	
重要である	37.0%	38.5%	↑
ある程度重要である	40.9%	41.1%	↑
あまり重要ではない	10.5%	8.9%	↓
重要ではない	2.1%	1.9%	↓
順位	30/36位	27/36位	↑

施策の満足度	前回	今回	
満足している	3.5%	3.3%	↓
どちらかといえば満足	45.7%	43.8%	↓
どちらかといえば不満	24.9%	25.7%	↑
不満である	4.1%	4.8%	↑
順位	13/36位	14/36位	↓

4. 社会潮流等の変化について（第2次総合計画策定時からの市民ニーズの環境の変化、法整備状況等）

- ・令和5年6月に策定された国の第4期教育振興基本計画では、今後5年間の教育振興に関する施策の方向性が新たに示された。
- ・コロナ禍での臨時休校や学校行事の中止、感染防止を目的とした密を避けるための行動制限等により、学校現場では学習活動や人的交流に大きな影響が生じ、子どもの情緒面や学力に大きな影響が生じた。
- ・個別最適化された学びの提供に向けて、GIGAスクール構想に基づき整備した1人1台端末を有効活用し、教育現場の更なるDX化が期待されている。
- ・不登校児童生徒数は増加傾向にあり、また、特別な支援を要する児童生徒数も増加傾向にある。
- ・子どもが抱える困難や課題が多様化、複雑化するなかで、誰一人取り残すことのない教育環境の充実が求められている。
- ・学校に求められる役割が多様化するなかで、教員に期待される役割も増大し、教員の業務負担が増大し、働き方改革が強く求められている。
- ・教職を志望する若者の減少により教員不足が進行し、代替講師の確保も難しい状況が進行している。
- ・就学援助の認定率は小学校で14%前後、中学校で19%前後と高い水準で推移しており、教育の機会の平等性の確保は引き続き重要である。

5. 施策を推進していく上での新たな課題、新たな視点

- ・個別最適化された学びの提供に向けて、教員のICT活用指導力の向上やDX人材の育成など、「教育DXの推進」が求められている。
- ・教員の業務負担増大による長時間労働が大きな課題となっており、「教員の多忙化解消」が求められている。
- ・特別支援教育、不登校対策、日本語指導など、多様化・複雑化する教育課題に対応し、誰一人取り残さないための「支援体制の充実」が求められている。
- ・多様化する教育ニーズに対応するとともに、安全安心な学校づくりを推進するための「教育環境の整備」が求められている。

6. 施策の課題解決に向けた今後の取組の方向性・内容等

- ・教育DXを推進し、子どもが主体的に学ぶ意欲を育む「個別最適化された協働的な学び」への転換を実現するとともに、ICTの活用等により教職員の働き方改革を推進する。
- ・知識・技能の習得に加えて、思考力・判断力・表現力の育成や主体的な学習姿勢の定着を図ることにより、自ら学ぼうとする意欲、学習習慣の確立、基礎学力の向上、創造性豊かな人間性の涵養につなげる。
- ・困難を抱える子どもの個々のニーズに応じた支援のため、学校内外が一体的に支援するチーム型の支援体制の充実を図る。
- ・施設の長寿命化やトイレ洋式化の早期実現など、教育環境の質的向上を速やかに推進する。